

公開温室 120年の歩み

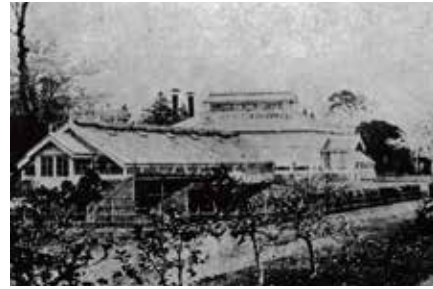
1896年に3号室、1900年に両翼が完成した温室は、我が国の木造西洋式温室の最初期に建設された温室の一つです。1945年5月24日の空襲によって焼失しましたが、戦後、残されたレンガ躯体を再利用し、1952年までに2、3、4号室が木造で再建され、1960年代には鉄骨造りに改修されました。さらに1977年には1号室がアルミ構造で再建され、建設当初を彷彿させる両翼構造が甦りました。

骨組み腐蝕状況調査で耐震性脆弱が指摘され、残念ながら2008年に一般公開が中止されましたが、植物園の主要施設として広く親しまれてきました。

今回の新温室建築に際し、小石川植物園の歴史的遺産である旧温室レンガ躯体を可能な限り保存、活用するために、温室1、2、3（旧温室の3、4号室）ではモルタルが塗られた状態で、メインエントランスではレンガ造りの構造を示すために、モルタルをはがして保存・展示しました。レンガに残る刻印は、使用されたレンガの製造所を示しています。



1896年
1896年建設の3号室。手前の壁には両翼増築を想定した骨組が見える。



1901年頃
両翼が完成した温室。3号室裏手にボイラー室から伸びる2本の煙突がみえる。



1920年代頃
3号室屋根がかさ上げされたことがわかる。ヤシ類の成長に伴う改修と推定される。



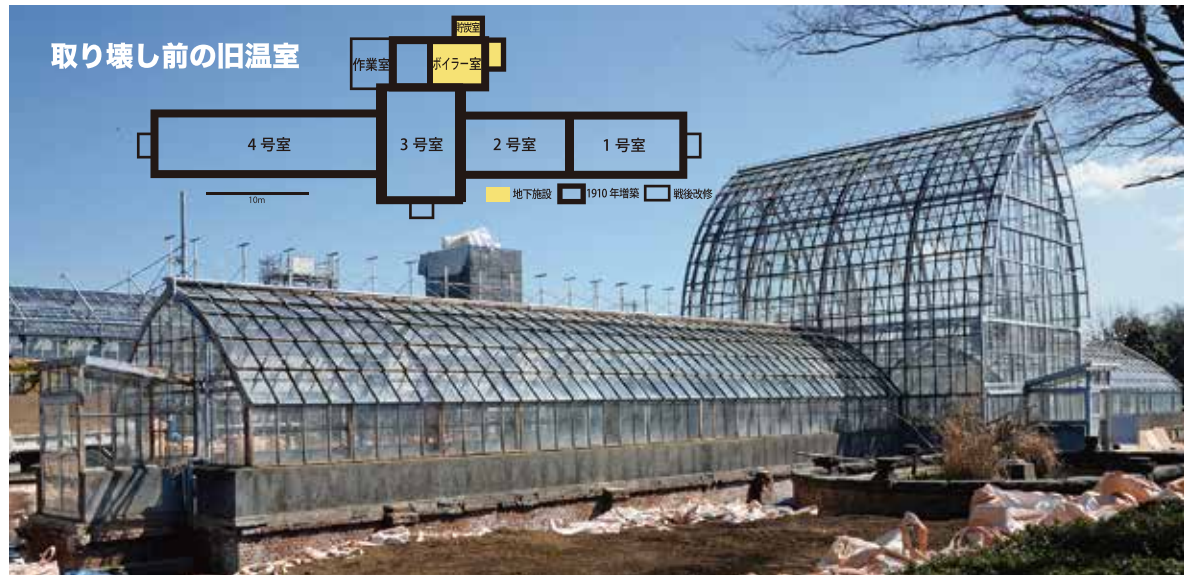
1945年
5月24日に空襲で温室は全壊。その後上屋は取り壊され、レンガ躯体のみが残る。(写真原板は東京大学総合研究博物館小石川分館蔵)



1952年
1847年に4号室、1952年に2、3号室が木造で再建された。(写真原板は東京大学総合研究博物館小石川分館蔵)



1982年
1960年代に2、3、4号室を鉄骨造に、1977年に1号室をアルミ構造に改修。



小石川植物園温室案内

東京大学大学院理学系研究科附属植物園

新温室の概要

小石川植物園公開温室は老朽化のため立て替えが必要となり、埋蔵文化財や旧温室の調査など、建設に必要なさまざまな準備を経て、2018年に本体工事に着手し、2019年5月に建物が完成しました。引き続き内部施設の設備と植物の配置を続け、2019年11月19日より一般公開の予定となりました。

新温室は、高さのある中央室とその両側に左右対称に両翼を伴うという旧温室の外観的特色を受け継いでおり、旧温室の基礎の一部を室内に現地保存するほか、旧温室と一体となって前面に設けられていた2個の池もそのまま保存されています。新温室の総床面積は1,249平米（栽培室面積約800平米）で立て替え前の床面積の約4倍となりました。バリアフリーの観覧と作業環境の改善のため広い通路を確保しており、入園者用のトイレを併設しています。夏期に高温になりすぎるのを防ぐため、天井全面にスライド式の大きな開口部を設けています。また、乾燥を防ぎ、湿潤熱帯のマイルドな環境に近づけるため、全室にミスト装置を設備しています。温室は温室1から6までの6室に分割され、部屋ごとに栽培環境を調節できるようになっています。温室建物の南側に、山地植物の栽培展示のため、床面積約100平米の冷温室を新設しました



温室のはたらき

研究・教育での利用を主な目的として多様な植物を収集する小石川植物園において、熱帯・亜熱帯地域の植物の栽培に無くてはならない温室は最も重要な栽培施設のひとつです。この温室には、植物園の教員や学生が海外調査により収集した貴重な植物や、国内外の植物園から種子や子苗によって入手した植物約2,000種が栽培されています。限られた室内で、できるだけ多くの種類を管理し、個体識別を確実にするため、大部分の植物は鉢植えで管理しています。

系統的に基部に位置すると考えられるものなど、多様性研究の鍵をにぎるとされる植物の多くが熱帯地域に集中していることが知られています。ところが目的の資料を現地で発見し収集するためには大規模な現地調査が必要となります。そこで、数少ない調査の機会に収集した植物を、いつでも研究に使用できる状態で蓄積しておくことができる温室はきわめて重要な施設です。また、蓄積されている植物は、遺伝子資源として利用される可能性も秘めています。

地球上の生物多様性の保全についても、植物園の活動が大きく期待されています。地球規模での生物多様性が高いにもかかわらず、自然破壊の危機に瀕しているホットスポットと呼ばれる地域の多くが熱帯・亜熱帯に集中しています。植物園では温室を利用した植物多様性の生息域外保全も積極的に進めて来ました。特に、約140種類の固有植物（その地域だけに生育する植物）のうち約90種類が絶滅危惧植物と認められる小笠原諸島の希少植物については、30年以上前からその保護増殖に取り組み、自生地復帰の実績をあげて来ました。



珍しい熱帯植物

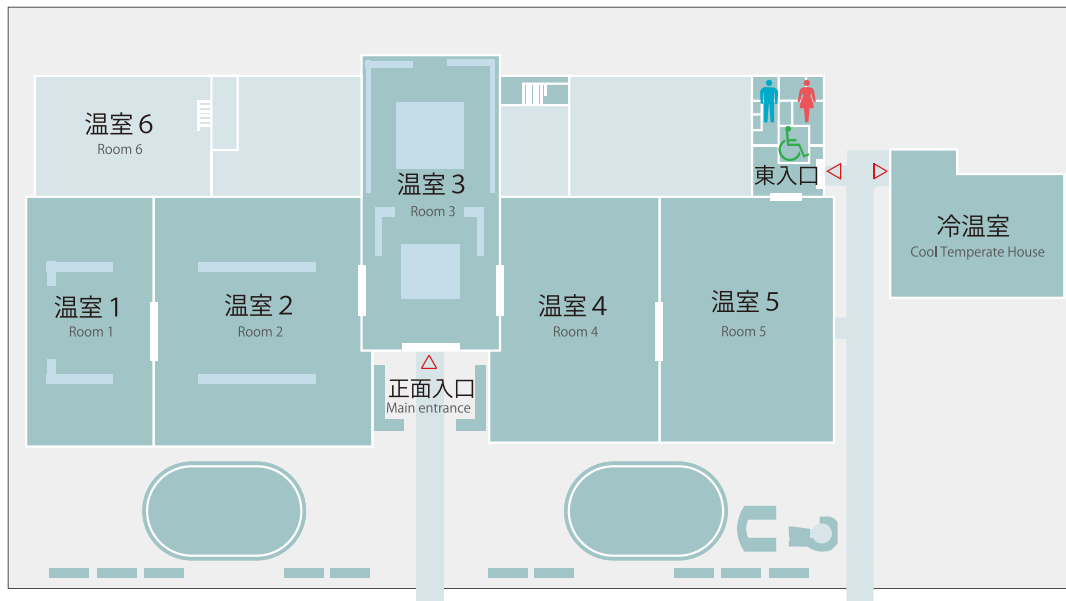


温室で保全される小笠原諸島固有絶滅危惧植物



Arisaema lihengianum *Agapetes oxycoccoides* *Agapetes pentastigma* *Strobilanthes lanyuensis*

最近の現地調査で発見された新種の植物



温室・冷温室配置図